

5日(土)、今年度2回目のプレイデイを無事に終えることが出来ました。今回も神様の豊かなお恵みとお守りの中に在って、子ども達を真ん中にしてたくさんの笑顔が溢れた心温まる楽しい時となりましたこと、心から感謝です。改めまして全クラスの保護者の皆様方のご理解とご協力に御礼申し上げます。そして、何よりも“ありがとう！”を伝えたいのは、この2回目開催のために毎日毎日来る日も来る日も小さな仲間たちのことを想いながら、話し合っ—一生懸命に準備を進めてきたリーダー、年長のいるか組7名の子ども達です。プレイデイ当日の礼拝でも少し触れましたが、自分達の経験したプレイデイが本当に楽しかったから、その想いを共有したい！その喜びを分かち合いたい！と、子ども達が自ら望んだこと、そしてその熱い願いをモチベーションにして1つ1つを形にしながらこのように実現できたこと、ここまでのプロセスこそ大きな意味、貴い価値があるのだと心から嬉しく、感謝の想いを感じています。10月8日から11月5日までの日々、自分達のことは“置いといて”まずはりす組・ねこ組・らっこ組の気持ちを最優先に、それぞれが心を精一杯使って頭を精一杯巡らせて、身体を精一杯動かして、保育園の中を東奔西走していた7人の姿は、本当に頼もしかったです。いつの間にあんなに成長したのだろうと微笑ましく見守りながら、私自身の心も温かな想いでいっぱいになりました。また、リーダーのいるか組を支える“サブリーダー”として頑張ったこあら組12名も、日を追う毎に、自分達がリーダーから必要とされている立場なのだ—という実感が喜びへ変わっていき、使命感と自信に満ち満ちた姿になりました。“人のために生きる”ことこそ、人が生きることの意味、人としての幸せです。「この日本中で、この世界中で、運動会を2回行う保育園や幼稚園こども園はいくらでもあるだろう。でも、2回目の内容を年長組の子ども達がすべて考えプロデュースしてこんなふう—に実践できた園はきっとどこにもないだろう」—ちょっぴり手前味噌的ですが…(笑)私達職員は皆で自負しつつ話しています。今年度のプレイデイは、つのぶえ保育園にとって初めてのチャレンジでしたがこれを通して痛感すると共に確信したことは“体験する”必要性和重要性です。してもらったことは同じように出来ますが、された経験がない人は出来ません。子どもも大人も同じ、人は皆、経験によってそれぞれに心が育ちます。まずやってみなくちゃ何も生まれません。感じることも学ぶことも体験は大きく影響し、心の土台になります。失敗だ—と思う体験も、次に生かすことでそれは素晴らしい経験に変えられます。失敗や過ちがあったからこそ、それが違っていたことの発見になることもあります。失敗を恐れずに踏み出すことで見える景色や与えられる想いが全く違うことを、改めて気付かされていますが乳幼児期において最も大切な、人としての心を健全に柔らか—に育むためにも、“試行錯誤”の機会をたくさん作りながら、子ども達が主体的に自由に経験し日々の保育や出来事を通して豊かに分かち合う場でありたいと思っています。

今月は「感謝祭」が間もなくやってきますが、プレイデイの経験を振り返り今度は小さな子ども達が“注いでもらった愛”を嬉しい気持ちで“ありがとう”と感謝に変えて、温かな絆を改めて結び合えるよう心の保育に努めて参ります。「受けるより与える方が幸いである(使徒の働き 20:35)」(石田 記)